

平成29年度経営発達支援計画 事業評価委員会 実施報告書

1. 日 時 平成30年7月19日（水）午後1時30分～2時30分
2. 場 所 網走市役所西庁舎 3階観光商工部長室
3. 出席者 網走市観光商工部 観光商工部長 後藤 利博 氏  
公認会計士（税理士法人北翔会計 代表） 藤原 誉康 氏  
網走商工会議所 中小企業相談所長 川畑 学
4. 協議事項 1) 平成29年度当所経営発達支援計画の実績と評価  
川畑より当所経営発達支援計画について計画と29年度実績を比較しながら事業効果について説明。その後、委員から事業に対する意見を伺う。

5. 委員会の評価・意見

【平成29年度 実施事項評価表】

項 目	事業評価
1. 地域の経済動向調査に関すること	A
2. 経営状況の分析に関すること	A
3. 事業計画策定支援に関すること	B
4. 事業計画策定後の実施支援に関すること	B
5. 需要動向調査、新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること	B
6. 地域経済の活性化に資する取組み	B
7. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること	A
8. 経営指導員等の支援能力の向上の取組	A
9. 事業の評価見直しをするための仕組みに関すること	A

4段階の目安

A：十分達成している B：概ね達成している C：半分程度しか達成できていない  
D：ほとんど達成できていない

【意 見】

- ・限られた職員数の中で、一部目標数値よりも低いものがあるものの、全体としてはほぼ目標が達成されており、概ね評価できる。
- ・地域経済がなかなか上向いてこない、事業活動が積極的に行われ新たな雇用創出に

つながるなどの効果が求められている。そのためにも小企業事業者等に対する伴走型支援がますます必要になってくる。

- ・事業計画策定後支援の実績が目標に届いていない。重要なのは策定後の状況確認とそのことに伴う支援である。試算表（月時）や決算書（年間）の提出をお願いするなど人的な不足をカバーし、状況を把握することも一つではないか。
- ・創業ゼミナール及びWEB戦略塾における費用対効果が現段階でははっきり見えない。やり方を工夫するなど効果をあげる取り組みを期待する。

## 6. 当所からの回答

- ・個社支援重視の視点に立ち、個別課題解決に向け取り組んでいく。
- ・指摘に事項については、検討改善を加える。
- ・地域の活性化には関係する機関の連携、情報共有が必要である。

## 7. 平成30年度事業実施に向けての改善点

- ・事業ごとの行動計画表を作成し、四半期ごとにPDCAを回していく
- ・事業計画策定後のフォローアップについてH28年度は目標を下回った。電話、メール、FAXの活用を含めて定期的なフォローを行っていく。試算表などの提出を求めていく。
- ・創業ゼミナール・WEB戦略塾は継続するものの、個別相談（個社支援）に重点を置いた内容に改善していく。
- ・連携機関との協力を強化し事業実施にあたりとともに所内共有を徹底し、職員の資質向上に努め支援強化を図る。